

高速道路雑感

大川 孝実

平成10年の春、兵庫南部には明石大橋の完成に合わせて西神自動車道、阪神高速北神戸線、山陽自動車道が供用開始し既設の高速道と共に本格的な高速道路網が出来上がる。

しかし、道路の整備が進めば進むほど自動車通行台数が増加するという「自動車利用呼び起こし効果」のため、新たな交通渋滞や環境問題の発生することが懸念される。

これへの対策として、次期計画の第二名神高速道路と大阪湾岸道路西伸部の早期完成だけでなく、高速道路の乗用車利用者をバス利用に転換するようなシステムの整備を積極的に進める必要があるのではないか。

高速道路のバスストップのパーク&ライド用の駐車場の整備、高速道路と鉄道との交差場所でのバスから列車への乗り継ぎ用のターミナルの整備、さらに、高速バス利用と列車利用とを一体化した運賃体系の整備により、出来上がった高速道路網を有効に活用することが出来ると思う。

21世紀への健康学習・体力作りは (新) 予知・予防法で

森口 春男

近年、保健・医療が大きな問題になっています。医療費は30年後には4倍に、その額は約100兆円。この膨大な数値は日本大学人口研究所がはじきだした。国民医療費総額の推計です。そして、高齢化に伴い病有率もまた増大すると報じられています。

格言に「予防は如何なる治療よりも勝る」と、昔から言われてきました。病気の原因を前もって知り、その予防法を実践することこそ、21世紀へ向けての健康法（人体力学応用矯正法）と言えま

しょう。

文部省と厚生省の協力のもとに、保健・医療の充実を目指す意味からも、生涯学習に組み込み、乳幼児、少年発育期より「自分の体は自分で守る」ための、具体的な実践法を学習することで、日常の片寄った悪い生活習慣・動作に気付き改める機会を作ることができます。

ある高名な先生が「成人病とは習慣病である」と明言されている。世代に関係なく、片寄った生活習慣・動作が、体に歪み「ストレス」をつくり、体力の低下の原因となっていることを認識することが肝要です。

雑感

松本 尚女

シンポジウムや会合に出席して思うことですが、専門家とか大学の先生が必ず出席されますが机の上だけのお話が多く、実際とは一寸違う場合が多々ある事を感じます。話のまとめは上手ですが、自分の知らないものには耳を貸そうとしません。もっと実際に研究している方々や、芸術家をコーディネーターやパネリストに採用すべきです。何故なら芸術家でも作曲とか作詞振付をして居られる方は又違った物の見方をして居られます。そして何かにつけて造詣が深く、物事がはっきりしています。芸術家の採用が望まれます。

復興に関しては、兵庫県神戸市にどの様にして人々を引きつけるかに関心があります。そこで、世界に一つしかないもの、淡路のモニュメントとか、日本にいまだない古典芸術の館、何時でも古典の芸術が見られる殿堂を作って頂きたいと思えます。

研究発表大会に参加して

濱口和則

昨年11月に神戸国際会議場で行われた研究発表大会は、しばらく忘れていた知的交流の楽しさを思い出させてくれました。

同じ市民として仲間の研究は、テーマも発表のスタイル（慣れない態度）も馴染み易く、感心したり疑問を持ったり、わくわくして眠気も一向におこらず最後まで聞きました。

そして、休憩時間や5時から行われた懇親会で、ゼミの仲間の様にいろいろと批判し合い、評価し合いました。こんな時間がまた戻ってきたのか、この場に自分がいることがとても幸福に思えました。

私達震災にあった者の内面の復興は、こんな私たちでも有り得るんだと実感しました。

震災の後、心踊ることが少なかつただけに、懇親会で研究仲間との知的交流を御馳走に飲んだお酒は最高に美酒でした。

見学会に参加して

瀬戸聖三

「近畿はひとつ」「世界都市関西」とかの標語を聞くようになって久しくなりますが、一昨年9月の関西国際空港開港後、大阪から神戸にかけて大阪湾ベイエリアとして一体化した整備が一層切実に求められています。

「復興特定事業の中国長江流域交流計画は“中国の物流基地”として神戸港を活用しようという計画で、エンタープライズゾーン構想と同時に実現できれば神戸経済に強烈なインパクトが与えられ民間企業の新規投資を誘発することになるでしょう。そうなれば神戸は日本だけでなく世界の中でも21世紀を切り開く最先端の都市として再生すると思います。」これは伊賀隆教授の意見ですが、

その計画推進のため21世紀学会では国際卸売マー
ト（ATC）とワールドトレードセンター（WTC）の見学会を12月に企画されたのでありがたく参加させていただきました。「百聞は一見に如ず」の諺どおり貴重な体験学習ができ、淀川をはさんで、神戸阪神地区がKANSAI WEST、大阪地区がKANSAI EASTとの想いを新たに
した一日でした。

都市地震災害国際シンポジウムに参加して

八木 宏

シンポジウムでは、各被災地のお話はその地域の置かれた状況、行政の取組み方に違いがあったものの、それ相応の対応をされたようだが、それら（違い）は比較されるものではなく、良い制度は互に取り入れる努力を常にすべきだと思った。一方、市民は十分に災害時の心得をチェックすべきだ。また教育委員会の調査した過去の古墳発掘より解き明かされた色々な時代の地震の歴史、地震学者の調査された断層の状態などにも注意を向けるべきだ。

被災地の見学では、ガレキの取除かれた跡の更地で見た暖い時期に蒔かれたワイルドフラワーの黒くなった姿にはさびしく思い、神戸港湾の被害状況には唖然とした。見逃せないのは船より見た山崩の赤肌である。その様子は痛ましく、二次災害が起こらなければと祈らずにおれなかった。

新しい近代工法による住宅建設、阪神高速の復旧、港湾の復旧、明石海峡大橋のような世界に通用する高度な技術を目の当りにし、技術的には十分に再建、復興されると思いました。あとはストレスをとる心のケア、人と人、人と自然の共生をどう取入れるかだと思います。